

令和7年度 視察研修会について

【視察研修会 概要】

研修先：トキエア 株式会社

所在地：新潟市東区松浜町 3710 番地（新潟空港旅客ビル待合室 他）

日 時：2025（令和7）年 11月 6日（木）14:45～15:45

参加者：運営委員 11名、事務局 4名 計 15名

【報告】

新潟市住みよい郷土推進協議会東区支部（以下、「東区支部」と記す。）では、東区支部会則第2条に掲げる目的（地域の生活環境の改善及び住民の健康の保持増進）を推進するため、毎年、視察研修会を行っている。

今年度については、運営委員に研修先に関する希望調査を行い、最も希望数の多かった、トキエア 株式会社（以下、「トキエア」と記す。）が選出され、東区支部より 15名（運営委員 11名+事務局 4名）が参加した。

初めに、機材（航空機）の見学を行った。現在、トキエアは、フランスの Avions De Transport Regional G.I.E（以下、ATR）社製、ATR72-600（座席数：72席）2機、ATR42-600（座席数：46）1機の合計3機を使用し運航している。

ATR機は、世界で多くの地域路線で採用されている信頼性の高い機材であり、安全性において国際的に高い評価を得ている。また、客室は静肅性と快適性を重視した設計となっており、明るく広い窓からは美しい景色が楽しめる。さらに、ターボプロップ機であるATR機はジェット機と比べて燃費効率に優れており、二酸化炭素の排出量も少なく（詳細後述）、最新の低騒音エンジンにより空港周辺環境にも配慮している（TOKI AIR HPより引用）。

ATR72-600（2号機）のコックピット内には2人ずつ交代で見学した。操縦席又は副操縦席に座りながら、パイロットより運転、操作等に関する説明をいただいた。操縦席の近くには、グラスコックピットや多くのボタン、レバー等が並んでおり、操作方法の複雑さ、難しさを実感した。操縦席については、想像していたよりも（お客様の座席よりも）狭く感じた。操縦席のスペースを最小限にすることで、お客様の空間を少しでも広く確保し、快適な空の旅を提供するといった「お客様ファースト」の配慮だと思われた。

見学前後の待ち時間では、客室乗務員等にトキエアの事業、使用機材、運賃や搭乗率等、様々な質問が上がり、当該事業者への関心の高さが伺われた（写真①）。

以下に機内での質疑応答の一部を示す。

- ・トキエアの従業員数は？→200名ほど。新潟が一番多く、その他拠点空港に従業員がいる。ちなみに、地元の新潟出身者は3割くらい。
- ・燃料を満タンにするとどれくらい飛ぶのか？→乗客荷物を載せなければ、札幌から沖縄まで。載せていると、札幌から福岡まで。
- ・最近の搭乗率は？→2025年9月の新潟空港発着路線は、全路線が利用率7割を超えている。搭乗率の低い場合、座席を貨物輸送のスペースとして変更できる（詳細後述）。

続いて、空港内の会議室において、改めてトキエアの事業概要、地域の貢献に関する取り組みや活動実績について、スライドを用いてご説明いただいた（写真②）。

トキエアは、2020年7月29日、新潟に飛行機を飛ばすことで、新潟県全体の経済・社会の活性化を目指して新潟発の航空会社として設立された。2024年1月31日には、初めての路線となる新潟ー札幌（丘珠空港）便が就航。大手航空会社の傘下に入らない独立系航空会社としては、約15年ぶりの新規就航を果たした。2024年9月27日に新潟ー中部（愛知県）便、2025年3月30日に新潟ー神戸便を就航し、同年開催の大阪万博需要も取り込み、多くのお客様にご利用頂いた。将来的には、佐渡への就航を計画しており、世界遺産・佐渡金山の観光需要に応えていきたいとのことだった。（配付資料及び新潟企業情報ナビのHPより抜粋）

トキエアは「地域密着型のハイブリット航空会社」として、以下の項目について取り組んでいる。

・ 地球環境にやさしい

地域密着型のハイブリッド航空会社として、地球環境にやさしいATR機材を使用。同型ジェット機と比較すると、CO₂排出量を約40%削減でき、温室効果ガス排出抑制に寄与している。低騒音エンジン使用により、運航開始以降、東区役所に当該機材に関する騒音の苦情は寄せられていない。

・ フレキシビリティ

国内航空会社むけのATR製旅客機では初となる機能「カーゴ・フレックス（Cargo Flex）」を備えている。全客室のレイアウトと、機内の前部をコンテナ4個分の貨物スペースとし、後部を客室とする「貨客混載」のレイアウトにも対応可能。

ATR72-600の「カーゴ・フレックス」の一例では、通常レイアウトなら72人の旅客と1.7tの貨物を、貨客混載レイアウトなら44人の旅客と3.1tの貨物が収容可能である。搭乗率に応じた、効率的な運航と顧客満足を両立する。（TOKI AIR HPより引用）

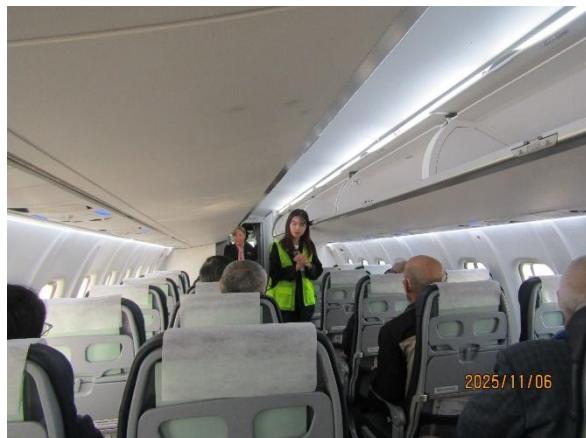
・ 自治体等連携～地方創生の座組

自治体連携として、村上市と包括連携協定を締結（2024年8月2日）。2025年度、交流人口の拡大に向け、村上市はトキエアを利用する市民を対象に、運賃の一部補助（片道2千円、往復で4千円）を行った。新潟市関係では、地元企業である株式会社 三幸製菓（北区）、株式会社 高助（中央区）、株式会社 亀田製菓（江南区）等が機内軽食用のお菓子を無償提供（期間限定）。地元新潟のPRを行った。

今後、トキエアは路線を更に拡大すると計画されており、国内外から東区に人・モノが集まることと予想される。当協議会としても、東区に来られる方が住みやすい街として認識いただけるよう、何か連携できることがあれば相談いただきたい旨を札状に添えさせていただいた。

見学の際、滑走路付近で航空機を背景にして記念撮影を行った（写真③）。通常は立ち入ることのできないコックピットの見学や広大な滑走路での撮影等、非日常の体験、東区の新たな一面を発見することができた。今後も新しい知見を収集、既存情報をより良いものに更新できるような視察研修会を計画していきたい。

【視察研修会の様子】



①機内での質疑応答



②トキエアの取り組みについての説明



③機材を背に滑走路で集合写真